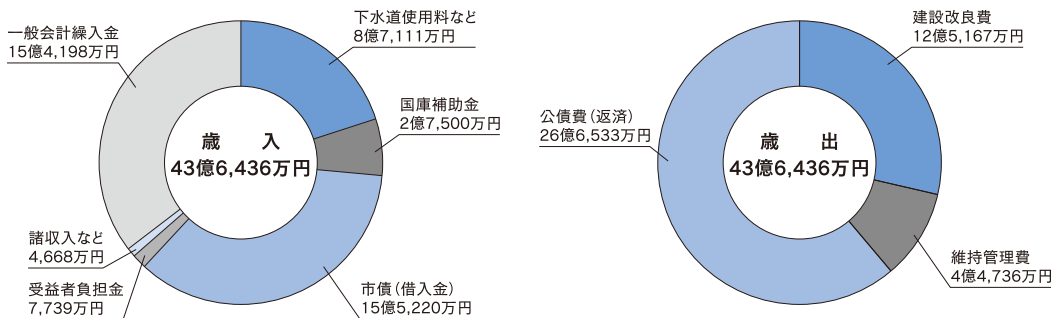


下水道事業の財政状況をお知らせします ～平成21年度公共下水道特別会計決算より～



公共下水道特別会計の決算は、歳入、歳出とも43億6,436万円の収支ゼロで、昨年度に比べて、歳入15億4,346万円、歳出15億2,646万円のともに減少となりました。その主な理由は、借入金返済や下水道建設費などの減少によるものでした。

～下水道を管理運営するための費用と財源について「雨水公費・汚水私費の原則」～

下水道施設を管理運営するための費用は、雨水処理費と汚水処理費があります。雨水処理費は税金(公費)で、汚水処理費は下水道使用料(私費)で負担するしくみとなっています。

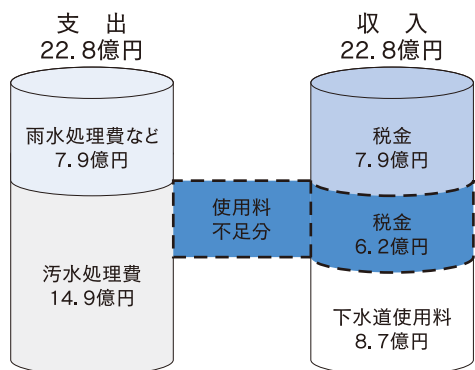
汚水処理費は、使った水をきれいにするため、下水道管や処理場の維持管理費や建設工事に要した借入金の返済などで構成されます。

平成21年度は、下水(雨水・汚水)を処理するために22.8億円かかりました。その財源は、上記の原則により雨水処理などに要した7.9億円は税金(公費)で負担し、汚水処理に要した14.9億円は皆

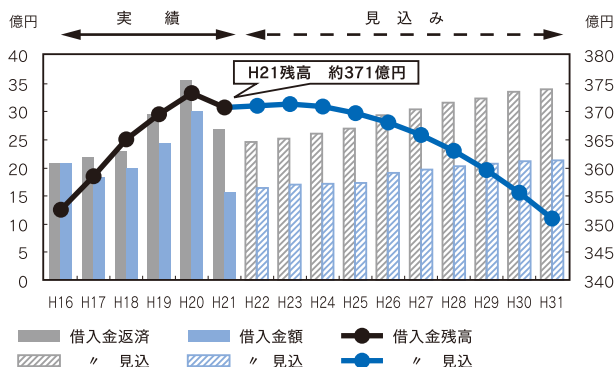
さまからの下水道使用料収入8.7億円と不足する6.2億円を税金(公費)で補いました。その結果、本来100%であるべき汚水処理費に対する下水道使用料収入の割合(経費回収率)は58.4%となり、前年度の60.5%より低下し、経営状況は悪化しています。

これまで、人件費の削減、施設管理の委託や低利率への借換債などによる経費削減を行なっておりますが、下水道の普及に伴い汚水処理費は増加となり、財政状況は依然厳しい状況が見込まれます。

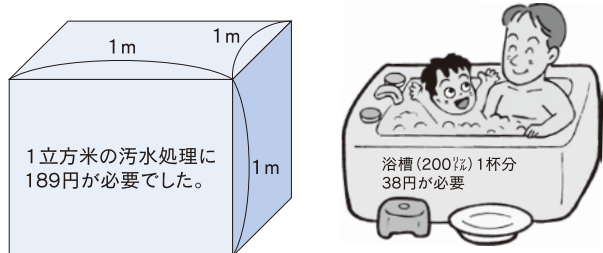
費用負担のしくみ(受益者負担の原則)



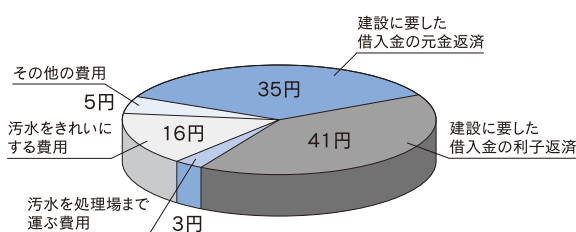
借入金の状況(借入・返済・残高)



汚水を処理するための経費



下水道使用料のゆくえ～100円の使いみち～



下水道事業の経営健全化を図るため、平成22年10月1日から3力年にわたり段階的な使用料の値上げをお願いしております。今後も、下水道事業の状況をお知らせするとともに、業務の見直し、維持管理費の削減、事業費の抑制など一層の経費削減に努め、効率的な下水道事業運営を図ってまいります。

問合せ: 下水道総務課 内線2361

